

## 第2回浜田市総合振興計画審議会 会議録

日時 令和2年12月17日(木)

午後6時28分～午後8時04分

場所 浜田市役所(5階)全員協議会室

[進行/会長]

◆ 開会	
会長	<p>定刻より少し早いかもしれませんが、本日、出席予定の皆様がお揃いということですので、始めさせていただきます。</p> <p>ただいまから「第2回浜田市総合振興計画審議会」を始めさせていただきます。議事進行は、私、林の方で進めてまいります。</p> <p>さて、本日はお忙しいところご出席頂きまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本審議会は、総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略について審議することとしております。本日は、最初に、前回の審議会でもいただきました意見に対する市からの回答を報告いただきまして、その後、この度、市の方で策定されました「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略プラス(案)」についてご意見を伺うこととしております。終了予定時刻は午後8時30分ということになっておりますが、委員の皆様のご忌憚りの無いご意見をいただきますよう、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、開会にあたりまして久保田市長よりご挨拶をいただきたいと思っております。</p>
1 市長あいさつ	
市長	<p>市長の久保田でございます。浜田市総合振興計画審議会の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。</p> <p>本日は、林会長さんをはじめ、審議会委員の皆さんにおかれましては、お忙しい中また、大変寒い中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>浜田市総合振興計画審議会におきましては、「浜田市総合振興計画」「浜田市定住自立圏共生ビジョン」そして「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況に対しまして、毎年貴重なご意見をいただいております。心より感謝、お礼を申し上げたいと思っております。</p> <p>この度の審議会におきましては、「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の追加策についてご提案し、ご意見を伺いたいと思っております。</p> <p>その背景といたしましては、第1回の審議会の中で、当市の人口の推移や、総合戦略の中間報告でお示しいたしましたとおり、人口減少が進んでおり、特に若い世代の転出超過が大きく、その影響が出生数の減少に繋がっていることにございます。また、新型コロナウイルスによる地方移住に向けた基盤整備についても早急な対応を求められているところでございます。</p> <p>これら喫緊の課題に対応するため、このたび「浜田市は若者が暮らしやすいまちをつくりまします」をキャッチコピーといたしまして「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略プラス」を策定いたしました。今後、「浜田で出会い・結婚・出産・子育て」応援プログラムや若者の居場所づくり、また、高速情報通信基盤整備といった施策を展開してまいりたいと考えております。詳細につきましては、後ほどご説明させていただきますが、本日も忌憚りのないご意見を賜りますようお願い申し上げます。</p>

	<p>委員の皆様におかれましては、当市の最上位計画でございます総合振興計画をはじめとする各種計画の策定から検証まで、長きにわたりお世話になりました。重ねてお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>
<p>〔委員・職員紹介〕</p>	
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>市長におかれましては、この後、所用があるということで退席されると伺っております。久保田市長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の委員の出席状況等、事務局からお知らせ願ひます。併せて配布資料の確認もお願いいたします。</p>
政策企画課長	<p>失礼します。政策企画課長の犬屋でございます。</p> <p>私の方から、本日の出席委員の確認と配付資料の確認をさせていただきたいと思ひます。本日、事前に資料等をお配りしているところですが、委員の名簿をご覧いただければと思ひます。</p> <p>本日の欠席委員でございます。</p> <p>まず、田中副会長様、藤本委員様、樫山委員様、榎岡委員様、田中委員様、渡邊委員様、名田委員様、永田委員様、花田委員様、柿元委員様、以上10名の方が欠席となっております。総合振興計画審議会25名中、本日の出席15名ということで、規定にあります半数以上出席ということで、会議の方が成立していることをお伝え申し上げます。</p> <p>続いて配布資料でございます。事前に本日の資料全てお送りさせていただいているところでございます。本日使います資料につきましては、まず、レジュメと委員の名簿、そして、審議会委員様から前回いただきました「ご意見及びそれに対する浜田市の考え方」ということで資料1、続いて総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン、総合戦略につきまして、修正等ございましたので、資料2として、修正の資料を送付させていただいております。また、本日の議題であります「まち・ひと・しごと創生総合戦略プラス（案）」の資料3、それとA3横長の総合戦略の内容を横並びにさせていただいた資料4、以上の資料をご用意させていただいております。</p> <p>資料について、無い方がおられましたらお知らせいただければと思ひますが、よろしいでしょうか。</p> <p>そうしましたら、この後の進行につきまして、会長の方からよろしくお願ひいたします。</p>
<p>報告</p> <p>(1) 浜田市総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン及び総合戦略の進捗管理の修正について</p>	
会長	<p>それでは議事を進めてまいります。みなさんのご協力をよろしくお願ひいたします。</p> <p>最初に報告事項について事務局から説明をお願いいたします。</p>
企画係長	<p>失礼します。政策企画課企画係の道山と申します。私の方からは、レジュメの報告事項にあります「浜田市総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン及び総合戦略の進捗管理の修正について」ということで、資料1と資料2についてご説明させていただきます。</p> <p>まず、資料1でございますが、浜田市総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン及び総合戦略の審議会委員様からのご意見及び浜田市の考え方ということで、こ</p>

これは前回の会議の後に、ご意見等で足りないところや追加するところがあればということで、後日提出いただいたご意見を、今回取りまとめ、浜田市の考え方と合わせて、皆さんへご提示させていただくものになります。

この資料につきましては、事前にお送りさせていただいておりますので、詳細な説明については割愛させていただきますが、まず、総合振興計画に対するご意見といたしましては、地区まちづくり推進委員会に対するご意見ですとか、はまチャレの記入方法や金額の設定、生ごみの削減に向けた取組、新規地元就職者の増加に対する取組、浜田の五地想ものがたりに対する地域食材の活用、加盟店のPRについてなど、28件のご意見をいただいております。

続きまして、定住自立圏共生ビジョンにつきましては、現在地元にいる若者への優遇措置等のご意見を、4件いただいているところです。

総合戦略につきましては、公民館におけるふるさと郷育や今後の取組として新たな生活様式に対応したデジタル化の推進等が必要であるといったご意見、また、コロナ禍で影響が表れる健康福祉部門への施策を着実に進めてほしいといったご意見をいただいております。そちらについては26件いただいております。

最後の頁をご覧いただきたいと思っております。ご意見とあわせまして、来年の4月から策定を進めることとなっております後期基本計画についてもご意見をいただいております。全体に向けてのご意見から各部門へのご意見、それぞれいただいております。また、先ほどいただいたそれぞれの計画に対するご意見にも後期基本計画の策定にあたりまして貴重なご意見が多数含まれておりましたので、それについても来年度策定に向けて参考にさせていただけたらと思っております。

続きまして、資料2をご覧ください。資料2につきましては、先ほどのご意見、また審議会当日のご意見でこの度修正させていただいた箇所の説明になります。

まず、進捗管理表の修正になります。「水産業の振興」の「まき網漁業構造改革取組統数の増加」につきましては、達成率の状況について修正をさせていただきます。0ヶ統ですが、1ヶ統5隻で形成されている中で、運搬船の更新を行った部分があるということで進捗状況を10%、20%ということによって上げさせていただいているということです。

続きまして、「観光交流の推進」の「浜田の五地想ものがたり協賛店舗数の増加」という所で、まず1つ目の修正箇所が現状値の把握誤りということで現状値の店舗数を修正させていただいております。もう一つは、前回の審議会の中でご質問、ご意見があった【進捗状況】で、7店舗加盟して3店舗が廃業を理由に退会したのでということで、足し算引き算があっていないと指摘をいただいております。4店舗が正しい数字になりますので、そちらに修正しております。

続きまして、「道路網の整備」の「県道改良促進」というところがございますが、担当課の目標値の認識が誤っていたということで、赤字にしてあるところ、現状値について修正をさせていただいているところです。

続いて、「人がつながる定住環境づくりの推進」の「UIターン者数の増加」という所がございます。こちらは最初に説明しました資料1にありました、「UIターンそれぞれの内訳を入れた方が良いのではないか」というご意見をいただいております。ということで、赤字で書いてあります括弧書きで内書きとしてIターン者数を入れさせていただいております。進捗状況の修正については、以上となります。

「Ⅱ第2次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗評価について(案)」でございますが、そちらについては、記載にあります行間の調整、或いは若干の文言の

	<p>調整をさせていただいたところです。</p> <p>続きまして、「Ⅲ 浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗評価」という所では、先ほどのご意見の中にもありました基本目標を表だけ載せさせていただいておりましたが、それではイメージが湧きにくいということでグラフを追加してはどうかというご意見がありましたので、次の頁に以降に載せていますとおりのグラフを添付し、達成状況と目標値の関係を図で表しております。ご意見、修正箇所につきましては、以上になります。</p> <p>また、前回審議会の中で佐々木委員さんからのご質問で回答できなかった総合戦略の進捗状況 27 頁、「学校を核とした官民連携プロジェクト」という項目がございます。今後の取組について、具体的に何をするのかというご質問を前回審議会の中でいただいておりますが、そちらの回答が出来ておりませんので、本日教育部の方からご説明させていただきます。</p>
生涯学習課長	<p>失礼いたします。生涯学習課長の村木と申します。どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>前回ご質問いただきました実施可能な事業を検討しているかについて、具体的にどのようなことを考えているかといったご質問だと思います。</p> <p>回答としましては、今後取り組む事業の予定としましては、引き続き地方創生推進交付金と県の教育魅力化人づくり推進交付金を活用しまして、魅力化コーディネーターを配置して市内の高等学校と地域住民や企業、行政や小中学校などを繋げたいと考えております。そして、まずは来年一月に高校の魅力ある教育活動を支援する組織として、高校魅力化コンソーシアムの立ち上げを進める予定としております。</p> <p>また、この 4 つの K P I の中では、海洋教育や自然体験推進事業、公民館を核としたふるさと郷育推進事業を行いまして学校教育や社会教育に関わるいろんな企業、団体等を増やして地域と学校が相互にパートナーとして連携協力を図っていく、そういった事業を現在考えております。以上でございます。</p>
会長	<p>ご説明、ありがとうございました。それでは質疑に入りたいと思います。</p> <p>ご説明いただいた事柄について、委員の皆様から何かございませんでしょうか。(意見なし)</p> <p>そうしますと、後でお気づきの点がありましたら確認いただきたいと思います。</p> <p>続きまして、議題にあります「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略プラス(案)」について、事務局から説明いただきます。</p>
政策企画課長	<p>失礼いたします。私の方から「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略プラス(案)」について説明いたします。資料 3 をご覧ください。</p> <p>まち・ひと・しごと創生総合戦略について、前回第 1 回審議会の中で総合戦略 5 年間の中間報告ということで報告させていただいております。その中で、今後の取組みとして、示させていただいているところですが、残りの 2 年間の中で特に若者が暮らしやすいまちづくりということを中心に総合戦略の追加支援策について検討していきますということでお話をさせていただいております。この度、追加支援策をまとめましたので説明させていただきます。</p> <p>浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略プラス(案)につきましては、市長からの挨拶にもありましたように出生数の減少、そういったことで人口減少に歯止めがかからない状況となっております。どういうことが考えられるか分析させていただきまして、特に 15 歳から 39 歳までの若い世代の人口減少が大きい、結婚率</p>

の低下・晩婚化、子どもが欲しいけど恵まれない環境にある、或いは3人目の子供が欲しいけど経済的な理由などで躊躇されているといったことが要因ではないかと考えまして、「浜田市は若者が暮らしやすいまちをつくります！」という宣言と共に「浜田で出会い・結婚・出産・子育て」までトータルで応援するプログラムとして現行の総合戦略に追加する形でまとめさせていただいております。

1頁をお開き下さい。冒頭では今回の戦略への追加の背景を載せております。先ほど説明させていただきましたように特に人口減少が続いている要因である出生数の減、特に子育て世代になる若者世代の転出によるところが大きいということから、この世代の定着が課題ということで国、県の戦略と歩調を合わせながら人口減少対策に取り組んで行くこととしています。計画期間についても、現在の計画期間である令和3年まででは実質一年ということになりますので、来年度策定します総合振興計画後期基本計画にこの計画を引き続ものとして、令和7年度までという計画期間としております。

2頁をご覧ください。先ほど申しました若者がどれだけ減っているかをグラフに表したものを載せております。15から39歳の人口が5年で14.6%減になっているということがありますので、ここを食い止めていきたいということでもあります。

続いて3頁をお開き下さい。いかに出生数の増を目指していくのかといった施策等を考えていくに当たり、子どもを持つことに皆さんがどのような意識を持っておられるのか、また実際はどうかといった現状を把握するため、アンケート結果を載せております。ただ、このアンケートは島根県内を調査された結果に基づいておりますが、参考になるのではないかとということで載せております。

まず、左上の円グラフをご覧ください。理想と考える子供の数について示しております。2人以上が8割を超えています。右下のグラフを見ていただきますと予定している子どもの数、こちらについても2人以上が5割を超えています。こういう状況になっておりますが、下の円グラフを見ていただくと実際の子供の人数ということになると0人の数が増え、2人以上が5割を切っているということで、一番左上の円グラフにある「理想は3人」と実態とは大きな開きがあるということを示しております。

そうしたことから、市として理想の数に近づけるということで、施策1として0人から1人に繋がる施策をしてはどうか、続いて施策2として3人目につながる施策に取り組んでは、ということをお考えいただいております。また、4頁におきましては、若者の直近の増減数を5歳刻みで推移を示しております。特に20歳から24歳での減少が大きいということが見て取れると思っておりますが、この世代の定着に向けて若者が暮らしやすいまちづくりに向けて施策3の若者の社会減を減らす、そして施策4の新たな生活様式、基盤整備に取り組んで行くことを考えているところです。

続いて5頁をお開き下さい。先ほど申しました施策1から4について、事業及び目標値を記載させていただいております。施策1では子どもを0人から1人に繋げるため出会い・結婚・出産までの支援事業を載せております。具体的には、出会い創出事業として民間団体が行う出会い創出の支援、結婚支援事業として年齢要件は設定させていただいておりますが、結婚に対し10万円のお祝金の支給、若者の出会い・結婚・妊娠・出産・子育てを支援する事業所を認定する制度の創設、産前産後の家事サポートの利用拡大、また、現在取り組んでいる不妊治療費用を更に拡充するという取り組み、そういった事業について「祝い金の交付件数」「事業所数」「助成件数」等4つの目標を設定して取り組みたいと考えております。

	<p>続いて施策2について、第3子以降の出生に向け、第3子以降を対象に主に経済的な支援として出生祝い金、保育料の無償化、保育所等の給食費の無償化に取り組みたいと考えております。</p> <p>また、6頁上段になりますが、第3子以降に限らない子育て支援としてもファミリーサポート支援への負担軽減、紙おむつ廃棄用ごみ袋の配布、現在行っております学校給食費激変緩和策の延長、そういったことにも取り組んで行きたいと思っております。目標値につきましては、第3子以降出生祝金の交付件数をみることで、出生数の増加につながったかどうかの指標にしたいと思っております。</p> <p>続いて、施策3につきましては、若者の暮らしやすいまちづくりに向けて15から39歳までの人口減少を抑えることを目標値として定めまして、具体的な事業として都会地から移住した若者をマルチワーカーとして複数の事業者に派遣する仕組みとして、国が新たに設けました特定地域づくり事業協同組合支援事業を活用させていただき、スキルを活用しながら仕事をしたい若者の受け皿づくりと言った事業に取り組みたい、或いは、若者の交流により新たな地域課題を掘り起こしていく交流の場のためのITラボの設置、若者の意見を市政に反映していくために若者女性会議の設置、若者向けの移住定住サイトの構築、特に求められている人材である看護師の確保に向けて看護学校等の学生への奨学金創設に取り組みたいと考えております。</p> <p>最後に施策4につきましては、コロナ感染拡大により人口の地方への分散化が今後考えられることが予想されます。特に若者が求める快適な通信環境等の基盤整備にも対応していくことを考えております。現在、ケーブルテレビの光回線化により高速情報通信の環境を整えていくこととしております。これについては令和7年度までに100%の基盤整備を行う予定とさせていただいております。</p> <p>以上が戦略プラス(案)となっておりますが、資料4をご覧ください。こちらにつきましては、先ほど申しました施策1の事業を出会い・結婚・出産・子育ての区分ごとに、現在取組みを行っているものと、新たに取り組みたいと考えている支援が分かる一覧とさせていただいております。右下に記載させていただいておりますが、年間約11億円をかけて子育て支援を行っておりますが、更に新たな取組みとして約6,500万円の予算を投入して取り組みたいと考えているものです。また、施策3、4の若者が暮らしやすいまちづくりに向けた取組みにつきましては裏面に記載させていただいております。こちらについては、先ほど申しました事業費6,500万円とは別の予算で取り組みたいと思っております。総合戦略プラス(案)について説明は以上になります。</p>
<p>質疑応答について</p>	
<p>会長</p>	<p>はい、ご説明ありがとうございました。それではこれから質疑に入りたいと思っております。ご説明いただきました「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略プラス(案)」について、ご意見、ご質問はありませんでしょうか。</p>
<p>玉置委員</p>	<p>3頁の円グラフがありますが、下の説明で「グラフは令和2年4月しまねっ子すくすくプラン別冊から引用」となっていますが、この円グラフによって理想は3人ぐらいまで欲しいという人が多いのに、実際は随分かけ離れているというように把握されたと思います。アンケートを取られた方が、男性も含まれているのか、女性だけを調べられたのか、わからないですね。それによって随分違ってくるのではないかと思います。又は夫婦で答えられたのか。一般的に子どもはたくさんいた方が賑やかでいいと思われる方が多いかもしれません。でも、実際</p>

	<p>に子供を育てようと思うと、子どもはたくさん欲しいけども教育費がかかる、育児が大変、働いていच्छる方は自分のキャリアと両立できるのか、いろんな要素が女性の場合は絡んできます。そこら辺のギャップがここに表れているのではないかと思います。簡単に理想はこれだけ、望んでいる人がいるのに現状はこれだけで、まだ伸びしろがあるのではないかと政策を考えられる時、男性がどれだけ育児に参加しているか、家事を一緒に負担しているかどうかというところが、少し施策の考え方から落ちているのではないかと危惧しています。</p> <p>実は、男性の育児参加については、随分国を挙げて応援しているわけですが、なかなか育児休暇を取れないという現実があります。取ったとしても、実際に育児をしているかわからないということで嫌がる。会社の政策としてはあるけども、実際取りにくいなど、いろんなことが言われています。ここは、もう少し掘り下げて政策の中に入れていただきたいと思うわけです。</p> <p>実は最近、少子化ジャーナリストという肩書を持った方で、白河桃子さんが県立大学に来られて学生を相手に講義をされました。盛りだくさんの有益な情報を話されて、私も興味深く思ったところです。2つ紹介されまして、1つは長崎県がやっているパパ検定というのがありまして、5分か10分かの短い動画で誰でも見られます。非常に短い動画ですが、見ていて感動しました。何が言いたいかというと、5つの家族に協力を得て自分の子供にパパの事について簡単な質問をするものです。「お父さんの名前は何か」「誕生日はいつですか」「好きな色はなんだろう」「好きな食べ物はなんだろう」という風に、お父さんのことをどれだけ知っているかを聞くのです。相手は小学生ぐらいの小さな子どもさんです。そうして最後に「あなたは、お父さんを評価するとしたら何点ですか」という質問で終わります。子どもさんはあまりお父さんのことを知らないのですよね。5家族とも子どもさんはお父さんに100点を付けたのです。1,000点付けた子供もいました。(すみません。興味深いのですが、発言を…)</p> <p>話の要点は、父親がどれだけ家族と子どもと過ごしたいかが分かる、非常に感激するビデオです。ただ、上からお父さん育児休暇を取ってくださいと口酸っぱく言ってもいろんな事情でできないので、具体的な取組みを参考になさって男性がどうして育児に参加できないかを含みいただいて、施策の中に取り込んでいただき、男性が育児に参加する、女性の負担を減らすということを加えていただけたら良いのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>まずは、希望する子どもの数とそれに対して実際の子供の数とアンケートについて、手元にデータがあればご説明いただけますでしょうか。或いは浜田市の類似調査結果のように理解しておりますが、いかがでしょうか。</p> <p>回答されたのが男性なのか女性なのかで違ってくるのではないかとというのが、玉置委員のご意見でした。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>島根県が行いましたアンケートにつきましては、男女含めての調査になっております。3,000件程度を県内で発送されて、約1,000件の回答ということで、県の方でまとめられ、子育ての施策の計画をまとめられたものを参考にさせていただいたものです。</p> <p>先ほどありました男性の家事の参画というところにつきましては、確かに出産等の全国アンケートを見ましても、男性が家事をされるという所は、子どもの人数も多くなるという傾向がみられるという調査結果も出ており、非常に大事なことだと思います。その辺りについて、どういった施策ができるのか、事業を追加</p>

	できるのかという点について、また検討させていただきたいと思います。
地域政策部長	<p>後段ご指摘いただきました男性がどれだけ育児に参加しているか、どういう意識かという点は、来年度男女共同参画の計画を策定する予定で、アンケート調査を実施しており、その中の項目として取り組んでおります。またそういった集計が出た折にはお示しできるのではないかと思います。ただ、いずれにしても男性も女性も1,000人という数字に反映されていて、ご夫婦で話し合いをされどちらの意見が通るのか色々なご家庭はあると思うのですが、本当は3人、4人そういう子どもが理想かなと思うご家庭の気持ちを応援できるような、そういう施策としていくつか挙げさせていただいております。現在、社会で子供を見守り若い人たちが子供を育てやすい、そういう環境を作ることが子供を産み育てるのにとっても有効だというデータもありますので、そういう地域を作る上で政策の一つとして、例えば事業所などで子育て・出会い・結婚・出産を応援していただけるようなそういう事業所に認定制度などを始めて少しずつ社会の機運を作っていく。そういう思いで政策を盛り込んでおります。また、今ご指摘いただいたパパ検定を含めまして、その他の取り組みでできるものについては、改めて考えさせていただきたいと思っております。</p>
会長	<p>男性の育児、家事参加に関する取り組みについては、今後検討いただくということでもよろしくお願ひしたいと思います。その他ございませんでしょうか。</p>
佐々木玲委員	<p>資料4を拝見したのですが、当事者に対する支援策ということで予算化されて、増額されて、これはこれでいいと思うのですが、これを利用されたお金は、例えば産科の看護師さんや保育士の皆さんの働いている環境にプラスになるような予算だとうまく回っていく使い方になるのかなというのがあります。安心して産み育てるといえるのは、その現場では働いている人たちからの情報発信、先生や看護師さんが働きやすい環境で育てやすい環境で働いているから「どうぞ浜田に来て私たちの産院で産んで、私たちの保育園で育てませんか」という発信が一番強いのではないかと思います。</p> <p>今、コロナで色々騒がれていて、現場の看護師さんや預かる人が非常に苦労しているのが見えてきました。私は保育支援員の資格を取るために保育園で2日間、朝から晩までフルタイムで実習をしましたが、働いている保育園には子どもを守るため、家族を守るための書き物がたくさん壁に貼ってありました。「これに対してはこういう対応をしなければいけない。」世間で騒がれる状況が発生するたびに、文科省や厚労省から通達が来て、それに対応するための研修、講習をしておられます。その方たちの働く環境が整っていないと、助成金を出してもその人達がうまく育たないのではないかと思います。間接的に増額された予算というものがこういう方たちの働く環境をよくすることの使い方になるのかなと。</p> <p>一番は、安心して産み育てるためにそこで働いている人たち、保育士や看護師などの環境整備にしっかり予算を使っていった方が預ける方は安心なのではないか。浜田に居て看護師さん、保育士さんが安心して働いているのなら、浜田に居て子育てしようかなというメッセージが一番強いのではないかなと思っております。そこをどう資料を読み解いていけばいいのかです。予算額の11億や6,500万がそういう環境整備に、そういった流れになるのか。</p>
会長	<p>保育士さん、看護師さんの労働改善が大事ではないかということでした。</p>



	<p>(情報発信をしていくことが一番必要ではないかということです)</p> <p>そういった人たちが情報発信していくことで人が増えるということですか。</p> <p>(浜田市という所は、そういう取り組みをしていると。どこの自治体も不妊治療やいろんな支援事業はやっているけど、そういう発想はなかなかないのかなど。独自性のある発信への予算の使い方はどうかと。どこに言えばいいのか、財政課なのか各担当課なのか。)</p> <p>私が整理できなくて申し訳ないのですが、ここにはあがってない看護師、保育士の労働環境を手厚くする可能性というのはありませんでしょうか。現状でも構いません。</p> <p>(そういう角度の違った情報発信をしてほしいなということです。)</p>
総務部長	<p>今回ご説明させていただいたものもですが、「それ以外にそういった環境整備もしなければいけないし、それも含めて進めるべきだろうし、そういうものがあるだろうか」ということでしょうか。</p> <p>今回、プラスということで説明させていただいたものが、横長の表の黄色い部分だと思えます。現行のものもありましたが、新たな取組みに関連するものを主に上げて作っております。もっと言えば、いろんな事業も全部そこへ繋がってくると思うのです。拡大解釈すると建物を作るのも道路を作るのもそれです。それでは、絞り込めてないので特化した説明をさせていただいたと思っております。従って、私が話しているのは財政的なことの話で数字的な話で大変恐縮なのですが、いろんな世代であったり、切り口であったり、いろんな形でお金を使っている。それをもう少し体系的に説明するとわかりやすいのかなと思っておりますが、今後我々も心掛けて説明できるようにしたいと思います。</p>
地域政策部長	<p>今回佐々木委員からご指摘をいただいた内容について、はっきり言いますとこのプラスの中には盛り込んでいません。ただ、これから総合振興計画後期基本計画に合わせて戦略の見直しをしていきますので、その折に今いただいた貴重なご意見などがどう盛り込めるかということ、改めて議論させていただければと思っております。申し訳ないですが、今回のプラスの中でそこまでは考えが及んでいないということです。今のご指摘は、今後の計画の中で検討していただければと思っております。</p>
高橋委員	<p>今回の追加は、すごくわかりやすく、サブタイトルもしっかりついていて、すごくいいなと思えます。先ほど佐々木委員も言われたように、子育て支援の現在の取組みが11億というたくさんの施策があり、その中に拡大解釈すれば含まれる事業もあると思うのです。私も一度ホームページで調べたら、たくさんありすぎてよくわからなかった。本当に必要としているところに、ピンポイントで刺さるようなPRをしていただきたいと常々思っていました。</p> <p>今回、プラスで第3子に対して保育料無料化や給食費無償化、これはすごくいい施策だと思えました。ピンポイントで分かりやすい。新聞で出ていましたが、第3子が70人程度の予算ということで膨れ上がらない。限りある財政の中で、本来なら第1子からしたいところでしょうし、それを皆さんも求めているでしょう。</p>

	<p>それがなかなかできない中で、第3子というのはピンポイントで分かりやすいという点で、すごくいいと思いました。</p> <p>それに関連して、若者が暮らしやすいまちづくりの「特定地域づくり事業協同組合支援事業」で、来る人も音大卒業生を募り、働くところも保育園や放課後児童クラブというピンポイントで、来る人もピンポイント、働くところもピンポイント。これが一番PRをしやすくし、たくさんの応募があると聞いております。現在、新規事業としていますが、これが一つの事業なのか、それとも今後こういった事業を増やしていかれるのかという質問が一つ。</p> <p>それから若者女性会議の設置というのがあります。これは、女性限定なのでしょうか。それとも、男性も入るのでしょうか。できれば女性に限定せずに、若者の発想による新たな施策となっていますので、男性の意見も聞きたいと思います。「若者女性会議」となると女性しか入れないイメージになるので、ここはどうかという質問です。よろしく申し上げます。</p>
地域政策部長	<p>最初に、特定地域事業の関係ですが、現在、全国でも3つの会社の設立に向けて準備が始まっています。それ以外にもこれからという所もいくつかあります。浜田市の場合は、音楽を志した学生さんたちにおいでいただいて、子どもたちの情操教育に関わり、繋げていきたいということで、多くの希望者がありました。この事業については、議会からもご意見がありまして、保育や子育て以外の第一次産業とかいろんなところにも拡充できないのかということがありました。今回のモデルケースの中で対象としている人が、どういう分野、どういう職業ならおいでいただけるのかアンケートなどを取って、その分析を基に考えていきたいと思っています。行政だけでできることではありませんので、しっかりその辺りも踏まえて相談させていただいて、新しく事業が広がることがありましたらそういった取り組みにしていきたいと思っています。</p> <p>若者女性会議については、男性、女性、いずれにも入っていただける会議として考えております</p>
宮本委員	<p>新たな取組みとして、お試し券の無料配布というのがありますが、この内容について詳しく教えていただきたいということと、学校給食費支援事業が延長になっておりますが、これまでどのくらいの額を支援していたのかと、延長は全く同じ額、内容を延長するのかということをお教えいただきたいと思っています。</p>
健康福祉部長	<p>現在、産前産後の家事支援サポートという事業をしております。対象を0歳から6か月としておりますが、実際は3歳まで家事サポーターを使うことができることとしております。利用料は予約制で1回2時間当たり400円ということで現在やっておりますが、これを使っただけということが難しく、利用者が少ないということです。実際に使っておられる方が今一人おられて、非常にいいと言っておられますが、最初はなかなかとつきにくいのかと。産前産後に子育てではなく、自分が子育てで忙しい時間やつわりで苦しい時に家事のサポートをしてもらう制度ですが、家の中に入っただけというのがちょっとどうなのかと。そう思うところをお試し券で1回使ってみただけませんかということで、今回無料でそういう年齢の方に配布させていただくものです。実際使った方も増えておりまして、使ってみるといいなとわかるということなので、是非これを進めて行って、せっかくある制度ですので、拡大してぜひ使っただきたいと思っています。</p>

	<p>(400 円のものが 1 回分ということですか。)</p> <p>現在事業としては、そういう事業をやっておりますが、無料配布については、内容的なものはまだ決まっておりません。案として 5 枚ぐらい配って使ってみてもらおうということです。</p>
教育部長	<p>教育部長、河上です。給食費の支援事業ということですが、令和 2 年度から給食費を 6 年ぶりに値上げしておりますが、結局 6 年据え置いたことによって値上げ幅が大きいということで、値上げ分の 1/2 を激変緩和として支援しようということになっております。これをもう 1 年延長ということを考えております。ですので、定期的に値上げをしますので、今は一応令和 3 年度の単年と思っております。金額は、今年度は 730 万ぐらいで、来年度は 700 万から 720 万ぐらいという見込みをしております。</p>
賀戸委員	<p>すみません。2 点ほどお伺いします。色々な支援事業が書いてありますが、実際に子育て中のお母さん方のご意見を聞いての支援事業なのかということと、もう 1 点、市は子育て中の方の所得というのを把握されているのかということとを教えてくださいたいと思います。</p>
健康福祉部長	<p>まず、所得というところについては、保育園などに預けていただくと、当然所得が保育料に反映していますので把握はできております。ただ、在宅の子供さんについては所得を把握する必要がありませんので、そこについての把握はしておりませんが、児童手当というものが出ますので、その関係では把握しております。</p> <p>意見を聞いたかということですが、子育て支援センターを建設するとき、子育て中の方にアンケートを取った中では、要望やいろんな意見がありました。不妊治療はいい制度だという話もありましたし、紙おむつの廃棄ごみ袋については、庁舎内のいろんな意見を取りまとめ、ここに出てきたものです。また、第 3 子の保育所無料化についても、そういう意見があったものです。</p>
賀戸委員	<p>所得はなぜ聞いたかといいますと、やはり第 3 子、第 4 子を産み育てるという経済力が、浜田の若い方々にあるかということがお伺いしたかったわけです。申告されますので、所得が分からないよということはないはずですが。</p> <p>それと、お金を 10 万、30 万あげたからといって子どもを産むとか結婚するということが絶対あり得ませんので、もう少し知恵を絞ってほしかったかなという気がしました。以上です。</p>
地域政策部長	<p>確かに一番大切なのは、そのご家庭が経済的な余裕が出てくることだと思っております。ただ、そうすると今お勤めの方の給与水準を上げ、補助に頼らないいろんな仕組みや浜田の世の中が変わっていく必要があります、なかなかそこまでは行っていない状況があります。よく結婚や出産の祝い金などは、小さい規模の自治体さんがよくやられていまして、そこで効果を上げているところもありますけども、浜田のような 5 万人規模でやるというのは少ないと思います。ただ、これが一つのメッセージ、トータルで出会いから子育てまで応援することのメッセージとしてやろうということとさせていただいたものです。これが、実質どのような効果が出るということは、やってみないとわかりませんが、全体のトータルの事業の中でそれぞれのライフプランを所々でサポートしていくことで考えさせていただいた事業となっております。</p>
岡山委員	<p>先ほど賀戸委員さんも言われたのですが、経済的な支援を沢山していただけるのだなと資料を読み解かせていただきました。今、保育料を軽減されている関</p>

	<p>係で保育所に入所される子どもさんが増えているよという資料を見たことがあります。助けていただくことは非常にありがたいとは思っていますが、反対を言うと育児と仕事を一生懸命されているお母さんが増えているのかなと思いました。私の近くのお母さんたちは、仕事と育児と家事の中で結構大変な思いをされていて、その中で第3児、第4児を考えられるのかなという意見を受け止めたこともあるので、相談しやすい窓口を作っていただくのはどうかと思います。こんなことで相談しに行きにくいと言うお母さん方、SOSを発信しにくいお母さんもたくさんおられるというのを地元保健師との話し合いの中で教わったので、経済面での支援もですが、精神的なサポートやご家族をサポートできるようなメッセージの発信でもあれば相談しに行こうと思われるのではないかと思いますので、そちらの方も是非お願いしたいと思います。</p> <p>15歳から39歳の間の人たちが流出しているという話ですけども、地元の旭は生徒が自力で高校に通いにくい立地条件にありまして、浜田商業や浜田高校に行くのですらなかなか難しい状況で、スクールバスを使っている私立高校であるとかバスを出している邑南町の方へ流れてしまう傾向があります。先ほど高校の魅力化の話が出たので、交通の便とか生徒が自力で通えるようなことも考えていただきたい。子どもたちにとって高校3年間は非常に大きい時間で、そのまま高校の地元就職しようかな、友達がいるからそちらの方に行こうかなということも十分考えられることだと思いますので、そちらもお願いしたいと思います。</p> <p>最後に1点だけ、新たな取組みの【施策3】若者の暮らしやすいまちづくりがあるのですが、いろんな事業を考えてくださっているのが分かりました。ひょっとしたらこの中にも参加された方がいるかもしれませんが、島根県民センターが主催された事業所フォーラムに参加させていただきました。そのフォーラムは、企業と行政と保護者が参加し、地元企業の説明を聞いて回るという説明会でした。参加してみて、地元企業を保護者サイドが全く知らないなということに気が付きました。親は地元企業があることを知らなければ、「どうせ仕事は無いからどんどん外にでていきなさい」と言わざるを得ないところがあります。高校に入る段階ではある程度進路を決めているので、もっと小学生辺りから地元企業に親しめるようなイベントがあると「ここって、こんなことやっている」というのが分かるといいなと思いました。イメージとしては「キッズニア」という小さい子が仕事体験するような楽しい施設がありますが、そんなものの浜田版や石見版があると、自然と地元企業がこんなことをしていて、自分も働いてみたいという子どもが出てくるかなと思ひまして、是非、小さい子供から地元企業に親しめるような事業があったらいいなと思いました。</p>
健康福祉部長	<p>相談サポートは、現在もしております。ただ、現在コロナ禍で、ご家庭に訪問してというのがなかなか難しい状態ということは分かっておりますので、今、Zoomなどを使って、個室の中でそういった相談を受けるということを考えております。</p> <p>また、先ほどホームページが分かりにくいということがありましたが、たくさん事業があり、そこにたどり着くのが難しいということは、いろんなところからご意見いただいておりますので、子どもの事をパッと検索できるようなホームページを考えていきたいと思っておりますので、もう少しお待ちいただけたらと思います。</p>
産業経済部長	3点目の職場体験です。最近、事業者の方に協力いただいて、中学生の職場

	<p>体験やインターンシップの年齢を徐々に下げていくとか、地元の農家の方が作った野菜を食べていただくということで、実際に生産者の方にお話をさせていただくことや実際に行って見ていただくというようなこともやりつつあります。</p> <p>また、最近の若い方はSNSを良く使われるので、率先してそういった媒体を使って、実際に働いている方の意見をしっかり聞いてもらおうという取り組みもしております。大変貴重なご意見ですので、しっかりと取り組んで行こうと思います。</p>
地域政策部長	<p>どうしても地元の高校に通えない実情の事です。まず、地元の高校の魅力化についてしっかり取り組んで行くこと、それから交通手段についてですが、民間の力も借りなければいけないということで、利用者が少ないとどうしてもそこを走らせることができないという事情があります。ただ、高校生になるべく希望の学校に行きやすいダイヤであるとか、そういったことは念頭に入れて事業者さんと協議させていただいき、問題意識をもって取り組んで行きたいと思います。</p>
岡山委員	<p>高校の魅力化のことですが、高校の先生方が中学校に向けてプレゼンしに行くことがあると思います。割と子供たちはそれを覚えていて、この高校はプレゼンがうまかったから楽しそうとか言います。話があまりよくわからなかったからそもそも選択肢から外してしまうとこともあるので、是非浜田市だけでも魅力的なプレゼンを皆さんができるようによろしくお願いします。結構それが重要だということを伝えていただきたいと思います。</p>
地域政策部長	<p>分かりました。一応、高校は今地域政策部が担当しておりますので、プレゼンテーションの上手な先生に説明していただけるようにとお伝えしておきたいと思います。</p>
玉置委員	<p>新しい取組の中で、移住定住サイトの構築というのがあります。今浜田市はビデオを作っておられますので、それを拝見しました。少し地味ですが浜田に定住された方の過ごしておられる様子が紹介されていて、とてもよかったですと思います。特にシングルペアレントのプログラムで介護士として来られ、働いておられる女性の方が紹介されているのがあり、とてもよかったですと思いますが、1つお願いがあります。女性の起業家、浜田に帰って来られて起業された方がおられると思いますが、そういう方をあそこに入れていただければ、ビデオがもう少し良くなるのではないかなと思いました。女性にもっとアピールしていただきたいと思います。</p>
地域政策部長	<p>この移住定住サイトといいますのは、他所におられる方が見られて、是非行ってみたいと思っていただけるような魅力のあるものにしようということです。やはり魅力の一つというのは人だと思うのです。その地域で生き生きと暮らしておられる、或いは仕事に頑張っておられるという。玉置委員からご意見がありましたので、女性の起業家の方も候補として考えさせていただこうと思います。</p>
佐々木大委員	<p>最初、この資料を受け取った時にどういう位置づけのものかわからずにおりましたが、今日お話を聞いて凄くいい資料だなと思ったので色々コメントさせて下さい。</p> <p>まず、特にこういった若い世代の方を定着させる考え方は色々あると思います。今回は年齢が若いので自然増の取組みの話で行きますと、本当はこれだけ子供が欲しいのにとというグループの人たちと施策としてもう一人ぐらいどうですかというグループとでは、関わり方が違うと思っています。</p> <p>まず、本当はもう一人育てられたらいいなという願望を持っている方に対して</p>

の支援が必要だと思っていて、ただ、選べることが大事だと思います。先ほどの家事の分担の話でも、男性がしてもいいし、私は家政婦さんやシッターさんをお願いすればいいという感覚があります。浜田市で言いますとファミリーサポートも使えますし、やはり選べることが大事だと思います。家族だけで頑張ろうというのも無理が来る時がありますので、いろんな形でこういったときにこれを選ぼうという選べる手札の数や家庭のあり方を色々認める多様性を認めるというのがとても大事なかなと思っています。色々な取り組みがあって僕は、素敵だなという印象を持ちました。

意見として1点目、自然増のところで挙げられていない話がありまして、第一子出産年齢の高齢化の話があります。今大体30歳を超えているはずですが、それを若年化させる取り組みがあった方が良く思っています。具体的に何が重要かということで、まずは性教育だと思います。正しい性教育の知識を10代、20代の子にちゃんと伝えていくと、高齢になると体の負担もあるのだなということを女性だけでなく男性も知っておく必要があると思います。そういった知識を伝える機会があった方がいいのかなと思いました。第一子のお産年齢が上がっています、そこに対する施策、アイデアというのが一つあった方がいいかなと思いました。

二点目、社会減の抑制についてですが、キーワードが3つあると思っていて、仕事と教育と養育、養育は子育てのことになります。浜田市は子育てが手厚いと昔から思っていました。それよりもはるかに教育と仕事の方が社会減の影響が大きいのかなと思っています。教育のところは、先ほど高校魅力化の取り組みを活発にされるということでしたので、一旦議論は置いておいて、社会減の抑制に対する仕事というところで何が重要かといいますと、職種と働き方だと思います。浜田にある職種だとUターンできませんとか、移住はちょっと厳しいですという方に、実際東京や大阪でもお会いしていますし、働き方のバリエーションが少ないです。もう少し、職種も働き方も増えてくると「ここで暮らそうかな」と思える人が増えるのではないかなと思いますので、仕事という切り口で、職種と働き方のバリエーションを増やすような働きかけがあってもいいのかなと思いました。

最後、新しい生活様式のDXの話についてですが、まずインフラ整備のところでは基盤整備はいいのですが、進捗管理の仕方が分かりにくいのではないかと思っています。実際すでに高速網が届いている地域というのは結構あると思っていて、大事なものは高速網が届いていないところを無くすということなので、仮に60%ぐらい行っているのであれば、基準値の60%から100%に向けてという形だと思います。ケーブルに限定せずに、実際に住んでいる人が高速網を使える環境にあるのか、という管理にした方がいいのかなと思いました。DXについては基盤整備の事だけを見てもしょうがないので、並行してリテラシーの底上げというのが絶対必要だと思います。今の時代の目安で言うと、「携帯電話が使える市民が9割を超えていますか」ですが、多分超えていると思います。なので、これからの時代、感覚的なことと言うと「9割の市民がビデオ通話できますか」という感覚です。それがKPIのもう一つにあれば良いのではないかなと思います。

産業経済部長	委員さんのご指摘の職種と働き方、大変大きな課題でありまして、一番難しい課題だと感じており、しっかりと検討してまいりたいと思います。
地域政策部長	今回、施策3で入れた中に、例えば浜田のITラボなどもやっていたことですが、結局いろんなデジタルやIT技術を使いながら新規の課題解決に何

	<p>か役立てられるものが無いか、そういう取り組みを進めていこうということをして、そうなってくるとそれが仕事になってくるかもしれませんし、そういうことに興味を持たれ社会貢献したいなという関わり方が、広がっていけばいいなということがまず一つあります。</p> <p>もう一つは、テレワークをはじめとして、働き方にしても基盤が無いところではなかなか働けません。確かに今浜田はケーブルに関わらずいろんな通信基盤が100%ではないものの、せめてどこでもそれが使えるようにしようということをやっています。ただ、基盤整備だけでは広まっていきませんので、それを広めるための何らかの工夫がいるのだらうと思います。リテラシーの部分、使い方やこれからの情報化に向けてのことについては、基盤を作るだけではなく、その活用についての情報化計画を作っていかなければいけないと思っていますので、そうしたところを通じて広め、皆さんと一緒に検討していけたらと思います。</p>
佐々木玲委員	<p>応援事業所のところで、新たに予算もついているのだと思いますが、これは応援事業所に対する応援の予算立てがあるのですか。職場環境を整備することに対するものについてです。ただ認定書を作るだけの予算が作ってあるのか、環境整備することも併せての予算になっているのか。AEDとか街角ステーションの認定や後継者育成の認定などいろんな認定をいただいています、認定書だけ貰っている、この場合もそういうことなのかなと。ただ、認定してやるよということなのかな、そこをご説明いただけますか。</p>
健康福祉部長	<p>最初は事業所の方から、自分のところは従業員に対して結婚奨励金を出していますとか結婚休暇制度を設けています、妊娠出産のところであれば不妊治療に行くための有給休暇が取れるようにしていますとか、妻の出産の休暇を男性にもあげていますということ。子育てについては、男性の育休もあれば子供の看護休暇も有休や独自年休という所もあると思います。そういったことを実際にやっているということで申請していただいて、認定させていただくということです。その後、認定だけで置かないということではありませんが、休暇を取りやすくするためには、自分が休んだ時に保育園や看護職場であれば、ものすごく負担がかかるし、人を雇わなければいけない事業所さんもあります。そういった時に雇うための賃金などの補填を今後は考えていく必要があるのではないかと、全額補填することではありませんが、休む方が取りやすくするためには、事業所がそれなりの事をしないと取りにくい、他の人に負担がかかるとなかなか取りにくいので、そこを取りやすくするための事業所の努力に対しては、何らかのものを考えています。認定だけでなく何らかのことを今検討しております。ただ、それを申請した1年目からするというのは難しいので、最初は認定から始まって、1年経って実際こういうことで事業所は人を雇いましたということであれば、またそこを考えると今後は検討しています。</p>
石田委員	<p>一つは感想、もう一つはお願いです。よくできた案だと思っています。この計画の中にはどこにも書いてありませんが、改めてじいじ・ばあばの役割について、大切であり、頑張ろうという気持ちがあったところ。今は三世代同居というのは珍しいですが、いいように使ってもらえばいい感じになるのかなと感じたところです。</p> <p>それと、もう一つ、佐々木委員からもありました情報通信基盤整備ですが、総合振興計画の生活基盤部門の地域情報化の推進にも関係あるのですが、ケーブルの光化はあくまで土台の話なので、それをどのように使うかという思想的なところ</p>

	<p>ろについては、個々だけに関わらずいろんなところを串刺しに出来る考え方で統一できるところがいろいろにある。皆さんにどういう風に使っていただくかという所が一番大切なところで、計画が多い時にまた計画を作れというのは非常に忍びないところがありますが、浜田市の情報化計画が平成 25 年から 27 年までのものが最新で更新がなされていないと思う。間違っていたらごめんなさい。これがものすごく大切なことで、後期の計画にも多くの思想の部分で関わってくると思う。それを早急に後期の計画に間に合うように整備をしてもらいたいと思います。</p>
地域政策部長	<p>確かにケーブルテレビは、公設のひゃこるネットと第三セクターの石見ケーブルの 2 つあり、それぞれの情報化計画は、浜田の石見ケーブルが持っておられる計画は、石田委員ご指摘のとおりもう既に計画の期間切れです。ひゃこるネットが持っている方も開設当時に作られた思想がずっと引き継がれ、もう 10 数年経っているものになります。情報化の世界なので当然動きも早いですし、今回、高速通信基盤整備をすることに合わせて、その使い方とかこれから地域情報化をどう進めていくという事は、情報化計画を作るということで予定をしておりますので、来年度すぐに取り組めるようにやっていきたいと思っています。</p>
村井勉委員	<p>ケーブルの話が出ましたが、ケーブルを浜田市の場合ほどのくらいのパーセントで進んでおりますか。情報発信をするといっても見る術がありませんので。ですからここにおられる方で、ケーブルを持っているかないかをお聞きしたい。</p>
政策企画課長	<p>浜田自治区では、ケーブルの加入率というのは約 45%です。旧那賀郡の金城、旭、弥栄、三隅は、正確な数字を今持っておりませんが、大体 9 割近い加入率となっております。</p>
村井勉委員	<p>わかりました。やはり郡部の方は、ケーブルをやっておられるパーセンテージは高いのですが、浜田市内を見てもケーブルを取っていないところが多くいる。今 19 年と言われてそんなに経つのかと思いましたが、ケーブルが入って来た時に私も加入しました。市の広報などで市長さんがお話されるのをよく見ます。それさえ見ない人もいます。45%と言われましたが、もっと少ないのではと感じる。</p>
地域政策部長	<p>加入率は、少し正確な数字ではありませんけれども、これだけ差があるのは、ケーブルテレビが今まではテレビの難視聴対策と結びついていたからで、今までどおりテレビが見られているご家庭がわざわざこれに加入するということは、少なくとも旧浜田の市街地では少なかったと思っています。あとは、アパートなど家主さんが引く気にならなければ、中にお住いの方が入りたくても見られないといったいろいろな事情がありまして、こういう差があると思います。先ほど石田委員さんからもご指摘がありましたけども、これを使って地域情報化を図ろうと思うと加入率を上げていくというのが大きな問題ですので、その加入促進策などについて併せて検討していく必要があると思っています。</p>
会長	<p>その他、ご意見ありませんでしょうか。そうしますと、好意的なご意見もあり、一方では次期計画の課題へのご指摘もあったのではないかと思います。今日の審議会でもいただきましたご意見、また、この会議とは別に市議会からのご意見も踏まえて当初予算要求に合わせて、浜田市としての最終案を 3 月までのところで作成していく予定というふうに伺っています。出来上がりました最終案につきましては、3 月頃になろうかと思えますけど、事務局から委員の皆さんに送付していただきたいと思っています。そこで、委員の皆さんにはご確認いただくことになるということで、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>



	<p>ありがとうございます。そのような形で進めさせていただきます。        続きまして、事務連絡を事務局からお願いします。</p>
<p>3 その他        (1) 事務連絡について</p>	
<p>政策企画課        企画係長</p>	<p>私の方から3点事務連絡をさせていただきます。        まず、1点目は役員改選についてです。現委員さんにつきましては、現振興計画の策定から毎年の進捗管理まで、長い間お世話になっているところでございますが、任期は来年の3月までということになっております。来年度以降については、改選し進めさせていただこうと思っておりますのでお知らせいたします。        続いて2点目でございます。前回の審議会の時にお配りさせていただきました次期総合振興計画、総合戦略についてのご意見という所をお願いをさせていただいたと思います。先ほどもお話ししましたが、長い間この計画に関わっていただいておりますので、委員さんのご意見をできるだけ尊重しまして、次期計画に盛り込んでいきたいという思いがあります。本日お持ちいただければ自席においていただくか、私共の方にお渡しいただきますようお願いいたします。本日お持ちでない場合は、特に急ぎませんので後日お送りいただければと思います。        3点目につきましては、毎回お願いしております交通手段の紙をご記入いただき、自席においてお帰り頂けたらと思います。事務連絡は以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>只今の事務連絡について、委員の皆さんからご質問等ありましたらどうぞお願いします。        (質問なし)</p>
<p>◆ 閉会</p>	
<p>会長</p>	<p>そうしますと、予定よりは早くはございますが、予定しておりました議事は終了しました。改めまして、委員の皆様、また事務局から何かありましたらご発言ください。</p>
<p>地域政策部長</p>	<p>それでは最後にお礼のご挨拶をさせていただきます。        総合振興計画を平成27年から策定しようということで、最初におられる委員さんは5年以上の長きに亘りまして大変貴重なご意見を頂戴しました。団体や組織を代表して出られている皆さんは、途中で交代ということもありまして、まだ1年に満たない委員さんもおられますが、いただいた意見は本当に貴重だと思っています。私もずっと出ていて、一番感じましたのは、当初これを作った時に目標値を設定するのですが、その目標が結果としてこうありたいという、例えば人口で言えば、人口増減の数であったりするわけです。なかなかそれを達成するためにどういうことをやっていけば、それを達成するのかというのが見えない中で、忸怩たる思いを皆さん持たれたと思います。計画を策定する時にやはりゴールという目標だけでなく、きちんとかような行動やこれを積み重ねていくことで結果が出てくるというKPI、実際の行動を目標とする数値を本当は入れておかなければいけなかったのだらうと思っており、情勢が分かり始めたのが最初の部分でありまして、そういったことは後期の振興計画や戦略作りの方に反映させていきたいと思っています。いただいた意見を現在の計画の中で実現できないことも多々あったと思いますが、これも後期計画の参考に、また来年度新たな計画づくりに取り組んでまいりますので、引き続きのご支援をいただきたいと思います。本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。</p>

会長	<p>ありがとうございました。皆様には活発のご議論をいただきました。順調に進みまして予定の時間内に終了することができました。改めてお礼を申し上げます。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p> <p>以上を持ちまして審議会を終了いたします。</p> <p>お疲れ様でした。</p>
----	---

(午後 8 時 04 分閉会、所要時間 1 時間 36 分)